

例会報告



- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 大垣共立銀行 高山支店 4F
- 会長 遠藤 隆浩
- 幹事 垣内 秀文
- 会報委員長 長瀬 達三

第2595例会 令和元年10月7日
高山3RC合同ガバナー公式訪問例会

高山3RC合同ガバナー公式訪問例会

10月7日(月) 12:30~ ひだホテルプラザ

<プログラム>

司会進行	高山中央RC幹事	坂口 裕之
点 鐘	高山中央RC会長	坂之上 健一
ロータリーソング	奉仕の理想	
ゲストおよび地区委員の紹介	高山中央RC会長	坂之上 健一
国際ロータリー第2630地区	ガバナー	辻 正敏 様
国際ロータリー第2630地区	パストガバナー	桑月 心 様
国際ロータリー第2630地区	ガバナーエレクト	剣田 廣喜 様
国際ロータリー第2630地区	濃飛グループAG	清水 幸平 様
国際ロータリー第2630地区	代表幹事	井熊 信行 様
津ロータリークラブ会員		西出 誠 様
国際ロータリー第2630地区	米山記念奨学委員会委員長	村瀬 祐治 様
国際ロータリー第2630地区	インタラクティブ委員会副委員長	塚本 直人様
国際ロータリー第2630地区	情報部門委員会委員	北川 由幸 様
国際ロータリー第2630地区	国際奉仕委員会委員	養谷 雅彦 様
国際ロータリー第2630地区	ロータリー財団専門補助金委員会	
	職業研修チーム担当委員	長岡 俊輔 様
国際ロータリー第2630地区	ロータリー財団専門補助金委員会	
	グローバル補助金担当委員	大村 貴之 様
国際ロータリー第2630地区	財務委員	平林 英一 様
国際ロータリー第2630地区	青少年奉仕委員会委員	高橋 厚生 様
食 事		
会 長 の 時 間	高山中央RC会長	坂之上 健一
出 席 報 告	各クラブ出席委員長	
ニコニコボックス	高山中央RCニコニコ委員長	
歓 迎 の 挨拶	高山RC会長	山下 英一
ガバナー紹介	清水 幸平ガバナー補佐	
ガバナー卓話		
謝 辞	高山西RC会長	遠藤 隆浩
点 鐘	高山中央RC会長	坂之上 健一
写 真 撮 影	3RC合同	

<会長の時間>

高山中央RC会長

坂之上 健一 様

皆様こんにちは。本日は辻ガバナーをはじめ、地区代表幹事の井熊様、そして津ロータリークラブの西出様、ようこそ高山3ロータリークラブガバナー公式訪問例会にお越しくださいました。誠にありがとうございます。



高山3ロータリークラブが一同に例会を行うのは、毎年このガバナー公式訪問の日だけとなりますが、さすがに3クラブ全員が集まると人数も100名を超え例会そのものも緊張した雰囲気となり気が引き締まります。

また、後ほど辻ガバナーの卓話がございますが、各クラブの会長は会長エレクトセミナーの際、辻ガバナーのお話を聞いて人柄なども少しは分かっておりますが、皆様は初めてだと思います。私は会長エレクトとセミナーの際、初めて辻ガバナーのお話を聞きとてもユニークな方だと思いました。

2630地区の本年度テーマ「総天然色」、初めて聞いたときは「どうゆう事?」とゆう感じでしたが辻ガバナーの話を聞くうちに「なるほど!」となりました。内容は「総」全てのロータリアンが、「天」それぞれの空の下、「燃」しっかり思いを込めて行動し、「色」それぞれの色を醸し出す。恥ずかしいのですが、今までのガバナーテーマを聞かれると、当クラブ剣田ガバナーエレクトがガバナー時のテーマ「最も出席するもの・最も報いられる」以外思い出す事が出来ません。これではロータリアン失格だと思います。しかし本年度のテーマ「総天然色」は今までのテーマとは違いユニークで記憶にしっかりと残るテーマとなりました。又「総天然色」の具体目標もわかりやすく話されました。おそらく本日の卓話で具体的な目標も話されると思いますので私からは控えさせていただきます。今日は辻ガバナーの卓話を聞き皆様も本年度のクラブ運営に役立て頂きたいと思います。

最後になりましたが、辻ガバナーを始めとする地区役員の皆様の指導ご鞭撻を賜り、この高山3ロータリークラブが益々躍進する一年となる事を記念して、つたない話ではございましたが会長の時間といたします。ご清聴有難うございました。

<ニコニコBOX> 高山中央RCニコニコボックス委員

国際ロータリー第2630地区 ガバナー 辻 正敏 様、
国際ロータリー第2630地区 代表幹事 井熊 信行 様、
津ロータリークラブ 西出 誠 様

本日は高山3ロータリークラブ公式訪問例会に伺いました。よろしくお願ひ致します。

国際ロータリー第2630地区 濃飛グループAG 清水 幸平 様

本日は高山3ロータリー合同ガバナー公式訪問例会および会長幹事懇談会です。どうぞよろしくお願ひいたします

高山RC 山下英一 会長、高山西RC 遠藤 隆浩 会長、高山中央RC 坂之上 健一 会長

国際ロータリー第2630地区 ガバナー辻 正敏様、濃飛グループガバナー補佐 清水幸平様、地区代表幹事 井熊信行様、津ロータリークラブ 西出 誠 様のご来訪を歓迎いたします。本日はご指導の程よろしくお願ひいたします。また3クラブの地区役員・委員会委員長・委員の皆さま、本日のご出席ありがとうございます。

例会報告

<歓迎のあいさつ>

高山RC会長 山下 英一様

皆さんこんにちは。国際ロータリー第2630地区ガバナー 辻 正敏様、地区代表幹事 井熊 信行様、津ロータリークラブ会員 西出 誠様、ようこそ高山へおいでくださいました。高山3クラブを代表して心より歓迎申し上げます。また、地区役員の皆様方にはご臨席を賜り誠にありがとうございます。



暑かった夏も終わり、ここ数日はかなり冷え込み、夜は何かはおおるものがないと寒いくらいで、秋らしくなってきました。いよいよ、9日、10日は秋の高山祭です。開催に向け、神社では準備に追われています。この2日間、天気はいいようで、素晴らしいお祭りになればと思っています。

また、本日の公式訪問に引き続き、来月16日、17日はいよいよガバナーのお膝元、津市において地区大会が開催される予定です。皆さんと是非参加したいと思っています。

今年度の地区のテーマは「総天然色」です。これは(総)すべてのロータリアンが、(天)それぞれの空の下で、(然)しっかり思いを込めて行動し、(色)それぞれの色を醸し出すということです。私たちも、このテーマに沿ってロータリー活動を盛り上げていきたいと思っています。

時代は大きく変わっていきます。激変する時代にあって、ロータリーは環境の変化に対応して成長していかなければなりません。本日は辻ガバナーより地区の方針について直接ご指導いただけますことを心より感謝申し上げます。

辻ガバナーにおかれましては、これからもご指導ご鞭撻いただきますことをお願い申し上げますとともに、本日ご出席いただきました皆様のご健勝と第2630地区のますますの発展を祈念申し上げ、意はつくせませんが歓迎のあいさつとさせていただきます。

<ガバナー卓話>



国際ロータリー第2630地区ガバナー 辻 正敏様

皆様こんにちは。平素は高山の3クラブの皆様には大変お世話になっております。特に桑月パストガバナー、剣田パストガバナー、それから本年度の清水ガバナー補佐、米山記念奨学委員会の村瀬祐治さん、そして今紹介がありました委員の皆さんに大変お世話になっております。来年はガバナーエレクトの剣田さんをお世話をする立場になります。中々縁が深くなっていくなと感じております。

さて国際ロータリー2019-2020年度のRI会長マーク・ダニエル・マローニーさんはご承知のように「ロータリーは世界をつなぐ「ROTARY CONNECTS THE WORLD」というテーマを掲げておられます。

そして私達第2630地区は「総天然色」というテーマを掲げました。昭和30年代に映画を見て青春を謳歌した人達には大変懐かしい言葉だと思います。

会長のマローニーさんは、国際協議会の際、前年度の会員減少が過去にない大きなものだったことに触れ、増強や退会防止の大切さを述べられると共に、その方法にも大きく踏み込んで話をされました。よほど衝撃的なことだったのでしょう。私たち2630地区にはありませんが、実際に日本でも昨年度末いくつかのクラブが終了しました。残念なことです。

そこでマローニーさんの最初の強調事項。それはロータリー自身の成長だと訴えられました。それを彼は、「Grow Rotary」と表現しました。彼の表現は、「穴の開いたバケツにいくら水を入れても抜けていくばかり。それが今のロータリーではないか」と。そしてロータリーを成長させなければならないと言います。ロータリーというバケツをきちんと修復する。あるいは今の時代に合った新しいものに変える必要があります。

会員減少は組織としては大変な問題です。彼は続けます。職業分類を強化して会員を増やし、新しいクラブを作らなくてはならない。そして子供たちや若い人たちを大切にしなければいけません。ロータリーのリーダーシップの道をもっと歩きやすくしなければなりません。増強や拡大の前に行うべきことは、ロータリーの成長です。仕事をしながらロータリーが出来なければいけない。家族、仕事、ロータリーのバランスを考えなくてはならないと言っています。Grow Rotaryは単に会員を増やそう、組織を大きくしようと言っているのではなく、きちんと続いていくように(持続性)、成長していきましようと言っています。公共イメージの向上やロータリーの認知度向上もその一つです。

先ほども大切にしなければいけないと話した、子供たちや若い人たち。彼らとの結びつき・つながりの大切さです。今年の国際協議会に初めてローターアクトたちが正式に招かれました。世界で60名。日本から3名。私は日本からのローターアクターに質問しました。「どうしてローターアクトに入ったの」。予期せぬ答えでした。その答えは「奉仕がしたかったからです。」と明確でした。私は驚きました。私は彼らの年の頃、「奉仕がしたい」と思ったでしょうか。私は思いませんでした。皆さんは思われたでしょうか。その当時の私の感覚は、今話しているローターアクターとは遠く離れているように思います。しかしこうして言葉を交わし話し合っていくうちに、若い彼らと私たちの思いは、どこかで交わるかもしれません。どんどん話をするのが大切です。

青少年プログラムはロータリーにとって避けては通れないものです。今触れたローターアクトの他にもインターアクト、青少年交換等があります。いろいろなハラスメントや最近多く発生する災害時対応など様々な問題も起こっているようです。しかし私たちは諸問題を真正面から受け止め、諸問題への認識を深め、対応力を十分持って取り組まなければなりません。このような表現があります。船は港に居れば安全です。乗員を乗せて港を出て航海に出れば、静かな風の日もあるでしょう。しかし荒れ狂う嵐に遭遇することもあります。そのような時にどうすればよいか、常に十分な知識を持って起こり得ることに適切な対応して乗員を守らなければなりません。そして目的の港についた時、その船は多くの人たちの素晴らしい喝采で迎え入れられるでしょう。この船がロータリーです。

ちょっと難しい話になりますが、ロータリーの定義といってもよいとされています。ロータリーの中核的価値観というものがあります。奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップの5つです。これが昨年の国際協議会で「ビジョン声明」として出されました。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。」という声明です。それを受けて、目的を達成するための戦略計画があります。「より大きなインパクト」、「参

例会報告

加者の基盤拡張、「参加者の積極的なかわり」、そして「適応力を高める」です。

2017-18年度 Make a Difference (変化をもたらす)、2018-19年度 Be The Inspiration (インスピレーションになろう)、そして本年度2019-20年度は「ロータリーは世界をつなぐ」です。

「変化とは何？」と考えて時間が経ち、「インスピレーション」と言われて驚きました。そのような中、「あっ、こんなのはどうだろう」と思い付き。そうしたら「そのような思いや考えを持った人が手を取り合っていきましょう」と考えたら、まさに「ロータリーは世界をつなぐ」です。今年度のミッションは、「人びとが手を取り合って行動しよう」です。簡単に言えば、この2017-18年度からのテーマ、これが戦略計画だと考えても良いのではないのでしょうか。

では具体的にはどうしましょうか。「人々が手を取り合う」ために、まずクラブや地区のリーダーが率先して積極的に参加する。会員の維持と新しい会員の増強。出来ればローターアクターや40歳未満の若い会員、女性会員の増強。新しいクラブを作るのもいいでしょう。それとロータリーと関わっている若い人たち、インターアクト、ローターアクトとのロータリークラブ会員間の相互の積極的な参加・協力。地元のJCや商工会議所青年部との交流などいいですね。

「行動する」とは、例えばポリオ。ポリオ根絶活動でのロータリーが果たしている役割をはじめとしてロータリーが取り組んでいることを伝えましょう。R財団補助金を活用してのプロジェクトを増やすと共にR財団への年次基金、ポリオプラス、恒久基金への寄付の増進。「世界を変える行動人」キャンペーンの促進などでしょうか。これは新しいグローバル広告キャンペーンで、ガイドラインはありますが、クラブや地区でカスタマイズできます。一度ウェブサイトのブランドリソースセンターにアクセスしてみてください。

今年4月の規定審議会でメーキャップの話がありました。今まで例会の前後14日間だったメーキャップを、そのロータリー年度内にすればよいということです。いろいろ物議を醸していますが、年度内のメーキャップは最大期間で、今まで通りでよければそれぞれのクラブ細則で決める。例会の前後14日でも30日でも構わないわけで、あくまでクラブが決めれば良い訳です。

どんな変化が訪れても中核的価値観やビジョン声明を忘れなければロータリーは変わりません。より皆さんが居心地の良いロータリーにするためにロータリーを成長させるのです。そこには家族や若い人たちとのつながりを大切にして会員の基盤を強化しましょう。もう少しのところまで来ているポリオ根絶立ち上がりましょう。R財団が初めて寄付をしたのは1930年国際障害児協会への500ドルです。もっと言えばポリオに感染した子供たちをサポートする協会でした。ロータリーのポリオとの戦いは90年に及ぶと言っても良いでしょう。R財団の資金を活用して良い変化をもたらすための事業を行いましょう。そして寄付もしましょう。すべてロータリーの成長です。

8月にマローニー夫妻が来日されました。八戸、福島、東京・神奈川、そして名古屋を訪問されました。お隣の2760地区の名古屋での歓迎晩餐会に私も招かれて出席させていただきました。マローニーさんは7回？、奥様のゲイさんは5回来日されてみるようです。マローニーさんは国際大会大阪大会の準備委員も務められていたそうです。9月からは行事が沢山あり行き先が限定される。7月8月なら自分たちが行き先を決められるので真っ先に日本に来たと夫妻は言ってみえました。

その際こんな話をされました。マローニーさんのホームクラブであるアラバマ州ジーケーターRCが1992年、青少年交換で日本の女子高校生をホストしました。マローニーさんはその子を預かり、奥様のゲイさんが卒業した高校に通いました。米国と日本での家族ぐるみの付き合いが始まりました。留学期間が終わりました。1999年、マローニーさんが来日された時、彼女に連絡しました。しかし亡くなっていました。この話をされる時、マローニーさんの目は潤んでいました。そして私が出席させていただいた晩餐会にその交換学生のお母さんと呼んで欲しいと言われたようです。彼女の死は辛いことですが、晩餐会での再会はとても素敵なものでした。そして翌日奥様のゲイさんは彼女のお墓参りに行かれたそうです。暖かいマローニーさんが、そしてゲイさんが私たちの年度の代表で良かったと感じました。この出会いは大切にしたいと思っています。

さあ、いよいよクラブがロータリーの理念に基づき、自由に主導権を持ってロータリー活動をする時が来たようです。みなさんの家族が、事業所が、そしてクラブが生き活きとロータリーを楽しまれ、この地区に居るロータリアンとロータリークラブの数だけ人間味あふれる素敵な花を咲かせ、総天然色の2630地区を作りましょう。

<謝辞>

高山西RC会長 遠藤 隆浩 様

ただいまは、辻ガバナー様にはいつものセミナーのように深遠かつ示唆に富み暖かいお話を頂き高山3ロータリークラブの今後の活動の指針にさせて頂きたいと思っております。

私達3クラブはそれぞれ独自の活動していますが、ロータリーの理念に基づき行動していることは同じです。2630地区のテーマ「総天然色」のもと、各クラブの特色を出しつつ持続性を持ってクラブを成長させていき意義ある活動を続けていく所存でございます。

どうか今後とも3クラブに対しまして変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます

簡単ではございますが謝辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

